

内 容	演 題	講 師
四国の取組紹介 <b>【徳島県】</b>	動画による情報発信について ～徳島は宣言する「vs 東京」～	徳島県 政策創造部 地方創生局 地方創生推進課 係長 加藤 貴弘 氏
	<p>10年ひと昔と言われるが、ICT基盤の整備以降およそ10年、今や、徳島県はクリエイティブ先進県として、とくしま4Kフォーラムを開催したり、デジタルコンテンツ人材の育成のため、デジタルクリエイター養成塾やデジタルアート展などを開催している。また、今年で5回目となる「ICT（愛して）とくしま大賞」では、徳島を素材としたデジタルコンテンツを募集して表彰することで、「宝の島・徳島」の魅力为全国に発信し、デジタルコンテンツ産業を担う優秀な人材を発掘している。</p> <p>そんな中、昨年、徳島をもっと知ってもらいたい、という発想で始まった新しいプロジェクトが「vs 東京」である。</p> <p>知名度ということでは、平成26年7月の地域ブランド調査において、徳島は最下位の47位であった。徳島が日本のどこにあるか分からない人も多かった。これではいけない、と徳島の知名度向上に向けて、核になるものをつくる「とくしま発信・共通コンセプトづくり事業」の取組を開始した。</p> <p>都道府県が仕掛ける様々なプロモーションの先進事例としては、うどん県や高知家などのすばらしい取り組みがある中で、「二番煎じ」にならないためにどうすればよいか、徳島県の20代から40代の若手職員によるタスクフォースを結成し、真剣に議論した結果が「vs 東京」である。</p> <p>PRにあたっては、「功名が辻」「坂の上の雲」「八重の桜」などのオープニング映像などを手がけたDRAWING AND MANUALの菱川 勢一（ひしかわ せいいち）氏とコラボレーションし、昨年の9月9日に記者発表した。まだご覧になっていない方も多いと思うので、コンセプトムービーをご覧ください。（徳島県「vs 東京」PR動画を視聴）</p> <p>動画の効果として、ムービーがYahoo!のトップページに掲載され、検索急上昇ワードになったり、YouTubeでの再生回数が10日間で10万回を超えたりと、東京をはじめ全国の方にインパクトを与え、メディアでは「徳島県が東京にけんかに賛否」など、当初は面白おかしく取り上げられた。しかし、その後、コンセプトに込められたテーマを周知していく中で、メディアでも好意的に紹介いただけるようになった。</p> <p>コンセプトに込められたテーマは、東京の生活を否定するものではなく、画一化が進む中で、地方の個性がなくなってしまうことから、あえて大都市・東京という指標を掲げることで、我々が、徳島ならではの魅力の発見・発信をしていこうというものである。</p> <p>我々がvs 東京と訴えたことに後を追うかたちで、国を挙げた地方創生の流れが起きる。昨年9月、神山町に來県いただいた小泉 進次郎政務官から、東京の一極集中の打破は、暮らしやすい東京にすることでもあり、地方創生は日本創生にもつながると、賛同をいただいた。</p> <p>全庁挙げて「vs 東京」の意識統一を図り、情報発信するため、統一様式にした職員名刺の裏面には「vs 東京」と記載し、県庁玄関にも掲示している。</p> <p>昨年12月には、飯泉知事と東京の舛添知事との「vs 会談」も実現し、今年の漢字として徳島県は「対」の色紙を用意した。「対」は対決の「対（たい）」でもあり、一対「対（つい）」でもあるので、対決で切磋琢磨し、一対で未来創造をという思いを込めたことを、知事会談の中で確認しあった。</p> <p>また、「vs 東京」の県内外への発信強化として公式HPを制作し、10の「徳島宣言」を発表した。宣言は数値データに基づいた徳島の強みを発信するもので、徳島は仕事からの平均帰宅時間18:02、女性社長率、LED出荷金額比率、CATV世帯普及率が全国1位であり、特別養護老人ホーム待機者数は全国最小となっている。</p> <p>本宣言に基づく10本の動画を制作したので、その中から宣言の02「歳をとってもいきいきと輝けることを。」をご覧ください。（動画を視聴）</p> <p>今後の展開について、「vs 東京」は本格的な実践のステージとなってくる。徳島が、その豊かな自然や文化の魅力により、多くのクリエイターを惹き付け、「映像文化」のメッカ・徳島となるよう、全世界から作品を募る「短編映画祭」の開催を予定しており「4K先進地域」徳島の有する魅力をPRしていきたいと考えているので、ぜひご期待いただきたい。</p>	
<p>&lt;質疑・応答&gt;</p>		
<p>坂本先生：コンセプトをつくるにあたって、何か壁のようなものがあったか。また、効果としてはどういったことが挙げられるか。</p>		
<p>加藤氏：まずは、企画が県庁内で承認されるか、という壁があった。面白くてインパクトはあるが、厳しいのでは、と言われていたが、個人的には飯泉知事はきつと気に入ると思っていたので、がんばって調整した。</p>		
<p>発表後すぐ、在京のメディアでも紹介されたが、コンセプトの説明が不十分な中、誤解を招き、東京の方からたくさん苦情をいただいた。SNSも炎上し、vs 東京コールセンターというほど私も対応したが、注目されるという点では狙い通りではあった。</p>		
<p>10の宣言をつくったのは、徳島の魅力は何かを具体的に示すことであり、最近は特に好意的に受け止めていただき、認知度も上がってきている。さらなるステップはこれからだと思っている。</p>		
<p>坂本先生：次のステップを期待している。地方の魅力をどんどん発信していただきたい。</p>		